

GPTを活用した企業分析の効率化ビジネスサービスデザイン ～個人投資家の投資活動・企業のIR活動をサポート～

スカパーJSAT(株) 見玉光司

開発における問題点

- ・新NISAも開始し、投資意欲の高まりを見せるが、投資する際の企業分析が大変なため、よく分析しないまま投資するケースが増加
- ・ChatGPT4では欲しい回答が返ってこない
- ・回答の真偽を確かめる必要がある

手法・ツールの適用による解決

- ・ChatGPT4をカスタマイズした「IRアシスタント(製品名)」を適用
- ・事前にIR情報をインプット。企業分析に役立つ情報がチャットで瞬時に得られる
- ・参照元資料も表示してデータの正確性を担保

ビジネスサービスデザインのアプローチ

匠メソッド(全体像を設計)

ビジョン達成に向け、3つのコンセプトに取り組む

価値デザインモデル(意) 価値分析モデル(情) 要求分析ツリー(知)



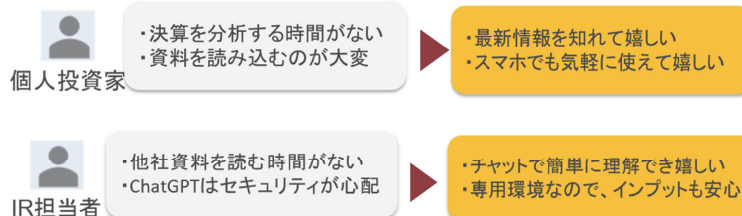
仮説検証(ツールの有効性確認)

カスタマイズ版の「IRアシスタント」であれば即時にIR資料の内容を要約可能ということを確認



価値検証

実際に需要があるかを確認



2nd Stage スマホ対応
(簡単手軽)



3rd Stage PC対応
(高セキュリティ)



「NTT統合報告書2023より」

まとめ

まとめ

- 仮説検証により、IRアシスタントが実用可能なことを確認
- 価値検証により、需要があることを確認

今後の展望

- 1st Stage: 自社内での利用促進を図る
- 2nd Stage: アプリ開発を行う
- 3rd Stage: 高セキュリティ環境を構築
- 情報の信頼性をより担保するため、AIを活用した照らし合わせ機能を実装